

たいことができない環境に追いやられている人も多いのです。「大学全入時代」や「日本人の学力低下」が話題となつていますが、まず世界の「Diversity」(多様性)や「選択肢の広さを知る環境があれば、自然と学力向上にも繋がり、大学へ進学する意味も再認識されていくのではないかと思います。IHSにはそういう環境があり、私もそこで過ごせたことにとっても感謝しています。

30歳を目前にし、これからの10年も今からとても楽しみです。10代で得た多様な対応できる感覚と、20代での異文化体験や社会経験から、今後は得たものを形にして社会に送り出していけるようになりたいと思つていきます。

**向き合うことの大切さ**

IHS2000年卒  
(2004年 国際基督教大学(ICU)卒、在学中マーストリヒト大学(オランダ)に交換留学、現在朝日新聞記者)

根岸拓郎



IHSに在学中、阪急梅田駅から歩いて通学する途中に目にしてきた新聞社に就職し、はや4年目を迎えるようになっています。現在は

神戸で働いています。新聞業界は極めてスピードの速い業界です。次から次に起る事件や事故をはじめ、役所や企業が発表する情報など、常に新たな事柄を取材し、記事にする作業に埋もれ、「自分がそもそも何をしたかったか」「どう生きたいか」という根本的な問いを忘れてしまいがちです。

考えることを放棄するか、それとも我慢して苦しみながら考えるか。その分かれ目は忍耐力だと思えます。なぜ自分がまだ立ち止まって考える力を保っているかを考えると、IHSで物事を真剣に考えるトレーニングを積んだおかげだと思えます。現在在学中の方には、授業でも本でも音楽でも絵でも、人の言葉や表現に大切に向き合つてほしいです。自分の意志を鍛えないまま、社会の大きな流れに飼いつけられるだけの生き方では、とてももったいないと思つてからです。

先日、阪神・淡路大震災で親を失った震災遺児の記事を書く機会がありました。母の友人などから「感動で涙が出た」などの感想をいただき、改めて活字の持つ力を思い知らされました。大勢の読者のためという記事を書くべきか、迷いが消えることはありません。しかし、IHSで純粹に小難しく物事を考えていたあの頃の自分を思い出すと、少し励まされる気がするので、これからの生徒の皆さんにとって、IHSが人生に

おいて大切な土台を固めるような場所になりますよ。う、心からお祈り申し上げます。

**表現・コミュニケーション学科  
新卒業生のメッセージ**

卒業、そして新たな旅立ちの季節。不安や期待を胸に抱きYMCAから社会へと歩む若者たち。開校から3年、初めての卒業生を送り出す大阪YMCA国際専門学校高等課程表現・コミュニケーション学科より、今春卒業する2名の学生にメッセージをいただきました。

**卒業に際して**

竹内 良



僕は1年生の10月にそれまで行っていた高校を辞めて、表現・コミュニケーション学科に転校してきました。今振り返るとあの時の僕は、認めてくれる人などいない、ましてや自分自身ですら肯定できない自分と必死に見つめあひ、新たな道を模索している途中だったのかもしれない。この3年間楽しい事だけでなく苦しい事もたくさんありました。特に2年生の後期は学校生活の中で一番辛い時期でした。けれどもその経験を通して僕は大切なものを手に入れることができました。それは「自身を大事にする」ということでした。今ではどんな自分でも肯定できる自信があり、2年前と比べて自分

今まで小学校・中学校と卒業式を経験してきましたが、一度も泣くことは無かったです。小学校の時には感動はしたけれど、中学校の時は喜びしか生まれてこず、卒業できることを喜ぶくらい学校が嫌いでした。

しかし、今回は少し寂しいという今までに無い感情が芽生え始めました。なぜこのように思えるようになったのでしょうか。それは、私が入学した表現・コミュニケーション学科という場所が、好きになれたからです。ここまで学校というところを好きになれたのは、やはり周りにいる人たちの存在でしょう。今までこれほど人や周りの環境に恵まれていたのは、恐らく初めてでした。そのお陰もあり、私は良い風に変わることができました。自分じゃどうにもできなかったことが嘘みたいに感じられる程です。これほどまでに、人は人によつて動かされるのかと身をもつて感じました。

高校という場所は卒業しますが、またすぐ次の場所へと進まなければなりません。卒業し次へ進んだその時、人の心を動かすことができるような、そんな人物でありたいと思います。

**卒業するにあたって**

中村雅美



高校卒業が目前に迫ってきていますが、さほど実感できていないのが本音です。私は全て終わった後に実感するタイプで、今回もそうです。

**和歌山市教育委員会**

**YMCA松尾台幼稚園を訪問**

1月21日(月)に和歌山市教育委員会体育振興課員、和歌山市立宮前幼稚園教職員10名の方が、YMCA松尾台・YMCAしろがね幼稚園の「健康づくり・体力向上」の取り組みについて視察に来られました。文部科学省が推進している「子どもの体力向上国民運動」を推進する市として和歌山市が指定され、和歌山市立宮前幼稚園が実施園となりました。専門機関である大阪教育大学よりデータ分析などの協力を受け実施する予定で、健康づくりに

今年度、YMCA松尾台幼稚園は文部科学省から助成金の交付を受け、「幼児の土踏まず形成について」の研究を行っています。今までの研究内容について、内外に情報を発信している経緯からYMCA幼稚園を知っていただきました。今回の視察では、子どもたちの活動の様子と幼稚園の取り組みについての説明、幼児期の健康づくりに

ついて意見交換を行いました。私立と公立の垣根を取り除いて、幼児期の健康、体力づくりに関する情報交換と研究を一層推進する良い機会となりました。(原 寛・YMCA松尾台幼稚園園長)



**スリランカYMCA同盟スタッフ研修受入れ!**

1月5日(土)から20日間の日程で、スリランカYMCA同盟スタッフ Charith Krishanthas de Silvaさんが大阪YMCAで研修を受けました。

この研修は、1995年以来スリランカYMCA同盟との協働で夏期に「Love & Affection Camp」※へのユースリーダー派遣を行っていますが、今年度は現地の情勢不安のため派遣を中止し、それに代わる交流として実施されました。研修は、彼のスリランカでの担当であるチャイルドケア、キャンプ、リーダーシップ養成の分野で、北YMCA、YMCA幼稚園、統括本部などで実技と講義の両面で行われました。



この間北YMCAの会員礼拝やワイズメンズクラブの例会にも参加し、19日(土)には過去のスリランカプロジェクトに関わった委員・会員・ユースリーダーとの交流研修会を持ちました。Charithさんは、「Love & Affection Camp」に2004年から関わっていて日本からのリーダーやスタッフとも顔なじみで、スリランカYMCAや現地の状況、今後のスリランカYMCAとの協力などについて活発な意見が交わされました。今後もスリランカYMCAとの良い協力関係が続くことを願っています。(神前順次・服部緑地ユースホステル所長)

※クリスマス献金支援プログラム。内戦で親を亡くした子どもたちの心のケア、対立する民族の融和、ピースメーカーの養成を願い、日本から指導者(会員、ユースリーダー等)を派遣し、キャンププログラムを行っています。